

大学生活における自己評価維持

山 本 俊 磨*

Toshima YAMAMOTO

Self-evaluation maintenance in Campus Life

問 題

Tesser らは、他者の行動の評価（知覚）は、われわれ（自己）と他者の関係性によって規定されるとし、数数の研究を続けてきた（たとえば、Tesser & Campbell, 1980; Tesser & Campbell, 1982 など）。いわゆる自己評価維持モデル（Self-Evaluation Maintenance. 以後 SEM と略記）である。

このモデルは、人々は肯定的な自己評価を維持しようと動機づけられており、他者との関係性が自己評価に多大なインパクトをもつと仮定する。

われわれは、親しい人が何かにおいて成功すると、その人の行為をほめたり、彼との親しさを強調したりすることがある。そうすることにより他者の栄光の恩恵に浴し、自己評価を高めたり、自己評価を維持するのである（「反映」 reflection）。しかし、このような現象は、成功した人が疎遠な人であったり、見知らぬ人であったりする場合には生じない。また、幾ら親しい人の行為でもそれが平凡であったり、水準以下であったりするときも、このよう「反映」は生じない。即ち、反映が生ずるか否かを決定するに際して、他者との親近性と、彼の行動の内容が交互作用的に影響するのである。

一方、親しい人が優れた行為をしたとき、われわれの自己評価は反映によって高められるが、同時に自分の行為が見劣りすることにも気づかざるを得ない。つまり、他者の優れた行為と「比較」することにより、自己評価はむしろ低下することもあるのである。

しかし、われわれは、親しい人の極くありふれた行為には傷つくこともないし、疎遠な人とは自己を比較することも少ない。また、疎遠な人の優れた行為は、親しい人の優れた行為ほどの脅威にはならない（Pleban & Tesser, 1981）。かくして、比較の過程もまた他者との親近性とその行動の交互作用的な結合に依存することに

なる。

このように対立する二つの過程、反映と比較の生起を左右するのは、他者の行動が、自己規定にいかにかかわっているかという自己との関連度である。

従って、SEM モデルでは、親しい他者がある行動で優れた成果を挙げるならば、そしてその行動が自己にとって関連が深ければ、人は比較による自己評価の低下を防ぎ、自己評価を維持するために、たとえば以下のようなことをするという。(a) 親しい人との親密さを減じる。(b) 行動との関連性を減ずる。(c) 行動の差異を減ずる。

以上の仮定は、もし親しい他者の優れた行動が、自己にとって関連が低いときは、比較ではなく、反映が作用するということを意味する。要するに、SEM モデルは、行動と親近性、そして関連度によって操作されるのである。

このモデルに従い、Tesser & Smith (1980) は、被験者と課題の関連度を操作し、被験者が自分の友人と疎遠な他者に対してどのように振るまうかを実験した。手がかりをもとに、語認知を行う課題において、重要な言語能力を測定するという指示を受けた被験者（課題と自己との関連度が高い群）は、課題と言語能力との関係は分っていない（課題と自己との関連度が低い群）に比べて、友人の課題解決を妨害し、疎遠な他者の課題解決を促進するように行動することが多いことを見出している。

また、こうした現象は行動次元以外にも、認知次元でも認められた（課題が自己と関連が高い条件では、友人の遂行を疎遠な他者よりも低く評価し、関連が低い条件では、友人の遂行を疎遠な他者よりも高く評価する。前出：Tesser & Campbell, 1982）。さらに、このような現象は友人選択にも関係することが見出されている（Tesser & Campbell, 1984）。

以上の Tesser らの知見は誠に明解である。しかし、

* 島根大学教育学部心理学研究室

一方で、自己規定に意味の深い関連がある領域の事項に対して、われわれは、このように自己防衛的な自己評価維持を計り続けるものであろうかという疑問もある。

親しい友人に対する〈友情〉が、歪曲を許さないこともあろうし、あるいは、自己評価の基準が必ずしも他者（親友、疎遠な他者）ではない場合もある。

梶田（1980）は、自己評価意識を問題にする場合、少なくとも、

- (1) 自己評価の意識を基底的に支える未分化な情緒的基盤（自信、誇り、自己愛など）
- (2) 自らの周囲の、あるいは自らの内面で想定した他者を基準として自分自身を見た自己優越的評価意識（優越感、劣等感など）
- (3) 自らの要求水準あるいは理想的自己像を基準として自分自身を見た自己受容（満足）的評価意識
- (4) 自己評価の意識と密接な関連を持つ態度や特性（独立心、積極性、心理的適応性など）

の四側面を区別して考えるべきだと述べている。

実際のところ、Tesserらの関連度の高い課題は、評価の基準が自己目標（満足）にあるのか、他者比較にあるのかは定かでない。他者を基準とせず、自己目標として重要な意味をもつ課題の成果は、たとえば、友人より優れていなくてはならないということにはなるまい。

加田（1987）は、大学生の〈キャンパス・ライフ〉を、学生の関心と関与度の深い9領域（①勉強 ②人間関係 ③サークル活動 ④異性 ⑤余暇 ⑥将来 ⑦アルバイト ⑧ファッション ⑨趣味）について調査、分析した結果、大学生の生活態度から、林の数量化3類による「活動性-非活動性」、「他者志向-自分志向」の2尺度を析出した。前者は、それぞれの領域の行動が活動的か非活動的かを決定するものであり、後者は、その活動が他者との関わりでなされるか、自己の関心に集中しているかを区分するものである。

ある意味で、大学生の日常で最も重要な、そして関連度の高いこれらの事項は、果してTesserらのSEMモデルに妥当するであろうか。これらの事項の自己評価は、親しい友人あるいは疎遠な他者（一般学生）をターゲットとすることにより、どのような影響を受けるであろうか。比較過程による自己防衛的自己評価維持や、反映過程による自己評価維持が作用するのであろうか。これが本研究の問題である。

そこで、加田の項目から、一般に、人並みあるいはそれ以上の成果をあげたいと期待される項目（「他者以上」）、一般に、他人を基準とせず、自分なりの満足感を得ればよい項目（「自己満足」）、「他者以上」と「自己満

足」が並存すると考えられるものを選出し、これらを自己評価維持に関する対象項目とした。

「他者以上」項目は、加田における①勉強 ⑥将来であり、「自己満足」項目は、②人間関係 ④異性、並存項目は、⑧ファッションである。これら項目の詳細は方法の中で述べている。

なお、本研究は、これら5領域の項目から幾つかのヴァリエーションを用意し、予備的調査（「人を判断する手がかり」として、重要なものを決定する）を通じて最終的な8項目を作成した。

方 法

1. 被験者は、本学教育学部において、「青年心理学」を受講する2、3年生で、「人の印象について」というテーマの質問紙に回答した。

質問紙調査は1987年6月中旬に実施され、記入もれなど不備のあるサンプルを除いた166名（男子62名、女子104名）のデータが分析の対象となった。

2. 質問紙の構成

本研究に先立ち、「人を判断する手がかり」に関する予備的な調査が行われた。本研究の質問紙は、この予備調査において被験者が、「人を判断する手がかり」として「考慮に入れる（重要視する）」と答えたいいくつかの項目を選び、これらの項目に以下のI～IVの質問をするものである。項目とI～IVの質問は次の通りである。

項目1 専門（専攻）とする分野の知識習得

- 2 単位の取得、成績
- 3 特定の異性の友人
- 4 好ましい友人関係
- 5 社交性をもつこと
- 6 身体や容貌の魅力
- 7 ファッション・服装で自己表現をすること
- 8 将来の目標を意識し努力すること

質問I 重要度

①自己にとっての重要性：項目の内容が、自分にとってどの程度重要であるかを測定する。例えば、項目2であれば、「単位をきちんと取得したり、よい成績をあげること」に対して、「重要である」～「重要でない」の4ポイントで回答する。

②親しい友人（同性）を評価するときの重要度：項目の内容が友人を評価するときどの程度重

要であるかを回答する。

③一般学生を評価するときの重要度：項目の内容が一般学生を評価するときどの程度重要であるかを回答する。

以上のように、質問Ⅰ～Ⅳは、項目のそれぞれについて、被験者本人（自己）、親しい友人友人、一般学生（一般）をターゲットとして回答することになっている。

質問Ⅱ 関連度

①自己関連度：自己を規定するものとして、項目の内容にどの程度関与しているか（やっているか）。項目6では、「魅力」を増すように、「非常に心がけている」～「全く心がけていない」の7ポイントで回答する。なお、項目の内容によって、「一生懸命やっている」～「全くやっていない」など、表現を変化させてある。

②友人関連度

③一般関連度

これらは、被験者がそれぞれのターゲットについて認知することを回答する。

質問Ⅲ 評価の基準

①自己目標：他者の成果（程度）を基準にせず自分なりに満足する。

②他者比較：他者の成果（程度）と比較し、人並み、あるいはそれ以上にすぐれたいと思う。これは、項目内容の成果（程度）を評価するとき、どのような基準で評価するかを問うものであり、友人・一般については推測により回答する。

質問Ⅳ 評価

項目内容の成果（程度）の評価を問うもので、「大へんすぐれている」～「大へん劣っている」の7ポイントで回答する。

結果と考察

表1-1～3-8は、質問Ⅰ～Ⅳの回答を整理したものである。全体として、「大へん～である」「全く～ない」などの回答は少なく、スペースの関係もあるので、質問Ⅰは4ポイントを2ポイントに、ⅡとⅣは7ポイントを3ポイントにまとめて表示してある。しかし、分析によっては元のデータに基づいて行ったものもある。以下に、質問Ⅰ、Ⅱ、Ⅳの比率を中心とした分析を試みる。

1-1 項目の重要度

項目の重要度は、ターゲットによってその意味するも

のが異なるので、被験者の回答をターゲット間で比較することはできない。被験者にとって、各項目の重要度は「自己規定」にかかわる意味をもつが、友人や一般学生に対する重要度は、むしろ「人を判断する」あるいは「評価する」手がかりとしての重要度である。

まず、自己に対する項目の重要度で見ると、項目8：将来に向けて努力する（将来）、項目4：好ましい友人関係（友人）、項目1：専門分野の知識習得（専門）などが、それぞれ全体として96.99%、96.39%、93.98%の割合で「重要である」とされている。これに次ぐものは、項目5：社交性をもつこと（社交）の87.35%、項目3：特定の異性の友人をもつこと（異性）の71.08%などである。

先に述べたように、項目1、2、8は「他者以上」の成果が期待される項目であり、項目3、4、5は「自己満足」の、項目6、7は「他者以上」と「自己満足」が並存する項目であった。

自己にとって重要度の高い項目に、「他者以上」、「自己満足」いずれの項目も含まれている。これは、自己評価を維持する前提として、常に他者が意識されるか否かを決する重要なポイントである。本研究では、評価が自己の満足に依存する項目と、他者との比較によって評価が左右される項目が、同じように重要度を認められたので、この両基準が、自己評価にどのように影響をするか検討することが可能であると思われる。（評価の基準参照）

友人や一般学生を評価する手がかりとしての項目の重要度には、対人関係の親疎の感情がよく反映している。

被験者は、殆どどの項目において、友人よりも一般学生に対して項目の重要度を高くしている。評価の基準を考慮しない全体の割合で、両者に対する重要度の割合を見てみると、「重要である」とする比率は次のようになっている。

1 専門 友人49.40%：一般学生64.46% CR=2.7708
(1%レベルで有意差あり。以下有意レベルのみを記入)

2 成績 友人28.31%：一般学生39.16% 5%

6 魅力 友人20.48%：一般学生48.19% 0.1%

7 服装 友人24.10%：一般学生46.39% 0.5%

これに対して、友人に対して重要度を高くしているのは、8 専門だけである。(友人78.31%：一般学生61.45% CR=3.3495 0.1%レベルで有意差あり)

以上は、既に成立している友人関係の中で他者を評価する場合と、深くかかわりのない他者を評価する場合とではかなり異質なものがあることを物語るものである。

表1-1 重要度・関連度・自己評価 (評価の基準別)

1 専門 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	22 95.65	1 4.35	23 28.40	13 56.52	7 30.43	3 13.04	23	8 34.78	10 43.48	5 21.74	23
女子 N %	53 91.38	5 8.62	58 71.60	21 36.21	25 43.10	12 20.69	58	7 12.07	26 44.83	25 43.10	58
合計 N %	75 92.59	6 7.41	81	34 41.98	32 39.51	15 18.52	81	15 18.52	36 44.44	30 37.04	81

1 専門 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	39 100.00	0 0	39 45.88	18 46.15	16 41.03	5 12.82	39	20 51.28	7 17.95	12 30.77	39
女子 N %	42 91.30	4 8.70	46 54.12	26 56.52	10 21.74	10 21.74	46	13 28.26	13 28.26	20 43.48	46
合計 N %	81 95.29	4 4.71	85	44 51.76	26 30.59	15 17.65	85	33 38.82	20 23.53	32 37.65	85

表1-2 重要度・関連度・自己評価 (評価の基準別)

2 成績 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	22 56.41	43.17 43.59	39 39.00	13 33.33	22 56.41	4 10.29	39	12 30.77	14 35.90	13 33.33	39
女子 N %	37 60.66	24 39.34	61 61.00	26 42.62	21 34.43	14 22.95	61	21 34.43	26 42.62	14 22.95	61
合計 N %	59 59.00	41 41.00	100	39 39.00	43 43.00	18 18.00	100	33 33.00	40 40.00	27 27.00	100

2 成績 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	21 91.30	2 8.70	23 34.85	16 69.57	6 26.09	1 4.35	23	12 52.17	4 17.39	7 30.43	23
女子 N %	33 76.74	10 23.26	43 65.15	24 55.81	12 27.91	7 16.28	43	16 37.21	18 41.86	9 20.93	43
合計 N %	54 81.82	12 18.18	66	40 60.61	18 27.27	8 12.12	66	28 42.42	22 33.33	16 24.24	66

表1-3 重要度・関連度・自己評価 (評価の基準別)

3 異性 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	36 76.60	11 23.40	47 32.19	19 40.43	15 31.91	13 27.66	47	13 27.66	23 48.94	11 23.40	47
女子 N %	65 65.66	34 34.34	99 67.81	27 27.27	41 41.41	31 31.31	99	33 33.33	38 38.38	28 28.28	99
合計 N %	101 69.18	45 30.82	149	46 31.51	56 38.36	44 30.14	146	46 31.51	61 41.78	39 26.71	146

3 異性 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	13 86.67	2 13.33	15 75.00	10 66.67	0 0.00	5 33.33	15	8 53.33	2 13.33	5 33.33	15
女子 N %	4 80.00	1 20.00	5 25.00	1 20.00	3 60.00	1 20.00	5	2 40.00	0 0.00	3 60.00	5
合計 N %	17 85.00	3 15.00	20	11 55.00	3 15.00	6 30.00	20	10 50.00	2 10.00	8 40.00	20

表1-4 重要度、関連度、自己評価 (評価の基準別)

4 友人 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	48 96.00	2 4.00	50 34.97	38 76.00	10 20.00	2 4.00	50	31 62.00	11 22.00	8 16.00	50
女子 N %	89 95.70	4 4.30	93 65.03	72 77.42	19 20.43	2 2.15	93	62 66.67	25 26.88	6 6.45	93
合計 N %	137 95.80	0 4.20	143	110 76.92	29 20.28	4 2.80	143	93 65.03	36 25.17	14 9.79	143

4 友人 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	12 100.00	0 0.00	12 52.17	11 91.67	1 8.33	0 0.00	12	8 66.67	3 25.00	1 8.33	12
女子 N %	11 100.00	0 0.00	11 47.83	9 81.82	1 9.09	1 9.09	11	8 72.73	1 9.09	2 18.18	11
合計 N %	23 100.00	0 0.00	23	20 86.96	2 8.70	1 4.35	23	16 69.57	4 10.39	3 13.04	23

表1-5 重要度、関連度、自己評価 (評価の基準別)

5 社交 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	42 89.36	5 3.73	47 35.07	23 48.94	17 36.17	7 14.89	47	20 42.55	11 23.40	16 34.04	47
女子 N %	71 81.61	16 18.39	87 64.83	38 43.68	35 40.23	14 16.09	87	40 45.98	21 24.14	26 29.89	87
合計 N %	113 84.33	17 15.67	134	61 45.52	52 38.81	21 15.67	134	60 44.78	32 23.88	42 31.34	134

5 社交 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	15 100.00	0 0.00	15 46.88	13 86.67	2 13.33	0 0.00	15	10 66.67	4 26.67	1 6.67	15
女子 N %	17 100.00	0 0.00	17 53.13	13 76.47	4 23.53	0 0.00	17	8 47.06	4 23.53	5 29.41	17
合計 N %	32 100.00	0 0.00	32	26 81.25	6 18.75	0 0.00	32	18 56.25	8 25.00	6 18.75	32

表1-6 重要度・関連度・自己評価 (評価の基準別)

6 魅力 (1) 自己評価

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	15 32.61	31 67.39	46 36.22	3 6.52	28 60.87	15 32.61	46	2 4.35	24 52.17	20 43.48	46
女子 N %	34 41.98	47 58.02	81 63.78	8 9.88	44 54.32	29 35.80	81	2 2.47	52 64.20	27 33.33	81
合計 N %	49 38.58	78 61.42	127	11 8.66	72 56.69	44 34.65	127	4 3.15	76 59.84	47 37.01	127

6 魅力 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	11 68.75	5 31.25	16 41.03	5 31.25	6 37.50	5 31.25	16	6 37.50	4 25.00	6 37.50	16
女子 N %	17 73.91	6 26.09	23 58.97	4 17.39	14 60.87	5 21.74	23	5 21.74	11 47.83	7 30.43	23
合計 N %	28 71.79	11 28.21	39	9 23.08	20 51.28	10 25.64	39	11 28.21	15 38.46	13 33.33	39

表1-7 重要度・関連度・自己評価 (評価の基準)

7 服装 (1) 自己評価

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	15 31.91	32 68.09	47 36.43	5 10.64	23 48.94	19 40.43	47	2 4.26	20 42.55	25 53.19	47
女子 N %	34 41.46	48 58.54	82 63.57	22 26.83	38 46.34	22 26.83	82	6 7.32	57 69.51	19 23.17	82
合計 N %	49 37.98	80 62.02	129	27 20.93	61 47.29	41 31.78	129	8 6.20	77 59.69	44 34.11	129

7 服装 (2) 他者評価

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	6 40.00	9 60.00	15 40.54	5 33.33	5 33.33	5 33.33	15	7 46.67	1 6.67	7 46.67	15
女子 N %	18 81.82	4 18.18	22 59.46	11 50.00	10 45.45	1 4.55	22	8 36.36	10 45.45	4 18.18	22
合計 N %	24 64.86	13 35.14	37	16 43.24	15 40.54	6 16.22	37	15 40.54	11 29.73	11 29.73	37

表1-8 重要度・関連度・自己評価 (評価の基準別)

8 将来 (1) 自己評価

性別、区分	重要度			関連度				自己評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	34 94.44	2 5.56	36 33.33	15 41.67	13 36.11	8 22.22	36	15 41.67	13 36.11	8 22.22	36
女子 N %	69 95.83	3 4.17	72 66.67	27 37.50	34 47.22	11 15.28	72	21 29.17	34 47.22	17 23.61	72
合計 N %	103 95.37	5 4.63	108	42 38.89	47 43.52	19 17.59	108	36 33.33	47 43.52	25 23.15	108

8 将来 (2)他者比較

性別、区分	重 要 度			関 連 度				自 己 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男子 N %	26 100.00	0 0.00	26 33.33	19 73.08	2 7.69	5 19.23	26	17 65.38	6 23.08	3 11.54	26
女子 N %	32 100.00	0 0.00	32 66.67	16 50.00	8 25.00	8 25.00	32	14 43.75	12 37.50	6 18.75	32
合計 N %	58 100.00	0 0.00	58	35 60.34	10 17.24	13 22.41	58	31 53.45	18 31.03	9 15.52	58

表 2-1 重要度、関連度、友人評価 (評価の基準別)

1 専門 (1)自己目標

性別、区分	重 要 度			関 連 度				友 人 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男子 N %	20 52.63	18 47.37	38 38.78	20 52.63	10 26.32	8 21.05	38	20 52.63	9 23.68	9 23.68	38
女子 N %	34 56.67	26 43.33	60 61.22	35 58.33	18 30.00	7 11.67	60	31 51.67	24 40.00	5 8.33	60
合計 N %	54 55.10	44 44.90	98	55 56.12	28 28.57	15 15.31	98	51 52.04	33 33.67	14 14.29	98

1 専門 (2)他者比較

性別、区分	重 要 度			関 連 度				友 人 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男子 N %	6 25.00	18 75.00	24 35.29	12 50.00	9 37.50	3 12.50	24	16 66.67	6 25.00	2 8.33	24
女子 N %	22 50.00	22 50.00	44 64.71	34 77.27	9 20.45	1 2.27	44	29 65.91	14 31.82	1 2.27	44
合計 N %	28 41.18	40 58.82	68	46 67.65	18 26.47	4 5.88	68	45 66.18	20 29.41	3 4.41	68

表 2-2 重要度、関連度、友人評価 (評価の基準別)

2 成績 (1)自己目標

性別、区分	重 要 度			関 連 度				友 人 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男子 N %	8 22.86	27 77.14	35 38.46	12 34.29	17 48.57	6 17.14	35	15 42.86	11 31.43	9 25.71	35
女子 N %	16 28.57	40 71.43	56 61.54	25 44.64	23 41.07	8 14.29	56	29 51.79	23 41.07	4 7.14	56
合計 N %	24 26.37	67 73.63	91	37 40.66	40 43.96	14 15.38	91	44 48.35	34 37.36	13 14.29	91

2 成績 (2)他者比較

性別、区分	重 要 度			関 連 度				友 人 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男子 N %	7 25.93	20 74.07	27 36.00	18 66.67	8 29.63	1 3.70	27	17 62.96	4 14.81	6 22.22	27
女子 N %	16 33.33	32 66.67	48 64.00	33 68.75	12 25.00	3 6.25	48	33 68.75	14 29.17	1 2.08	48
合計 N %	23 30.67	52 69.33	75	51 68.88	20 26.67	4 5.33	75	50 66.67	18 24.00	7 9.33	75

表 2-3 重要度・関連度・友人評価 (評価の基準別)

3 異性 (1) 自己評価

性別、区分	重要度			関連度				友人評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	10 21.28	37 78.72	47 35.07	17 36.17	18 38.30	12 25.53	47	17 36.17	23 48.94	7 14.89	47
女子 N %	29 33.33	58 66.67	87 64.93	32 36.78	44 50.57	11 12.64	87	36 41.38	43 49.43	8 9.20	87
合計 N %	39 29.10	95 70.90	134	49 36.57	62 46.27	23 17.16	134	53 39.55	66 49.25	15 11.19	134

3 異性 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				友人評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	7 26.67	8 53.33	15 46.88	11 73.33	3 20.00	1 6.67	15	11 73.33	3 20.00	1 6.67	15
女子 N %	7 41.18	10 58.82	17 53.13	9 52.94	8 47.06	0 0.00	17	9 52.94	5 29.41	3 17.65	17
合計 N %	14 43.75	18 56.25	32	20 62.50	11 34.38	1 3.13	32	20 62.50	8 25.00	4 12.50	32

表 2-4 重要度・関連度・友人評価 (評価の基準別)

4 友人 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				友人評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	28 54.90	23 45.10	51 37.23	30 58.82	18 35.29	3 5.88	51	32 62.75	17 33.33	2 3.92	51
女子 N %	63 73.26	23 26.74	86 62.77	65 75.58	18 20.93	3 3.49	86	71 82.56	13 15.12	2 2.33	86
合計 N %	91 66.42	46 33.58	137	95 69.34	36 26.28	6 4.38	137	103 75.18	30 21.90	4 2.92	137

4 友人 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				友人評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	10 90.91	1 9.09	11 37.93	10 90.91	1 9.09	0 0.00	11	10 90.91	1 9.09	0 0.00	11
女子 N %	14 77.78	4 22.22	18 62.07	15 83.33	3 16.67	0 0.00	18	15 83.33	3 16.67	0 0.00	18
合計 N %	24 82.76	5 17.24	29	25 86.21	4 13.79	0 0.00	29	25 86.21	4 13.79	0 0.00	29

表 2-5 重要度・関連度・友人評価 (評価の基準別)

5 社交 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				友人評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	31 62.00	19 38.00	50 38.46	25 50.00	24 48.00	1 2.00	50	36 72.00	14 28.00	0 0.00	50
女子 N %	42 52.50	38 47.50	80 61.54	54 67.50	21 26.25	5 6.25	80	61 76.25	14 17.50	5 6.25	80
合計 N %	73 56.15	57 43.85	130	79 60.77	45 74.62	6 4.62	130	17 74.62	28 21.54	5 3.85	130

5 社 交 (2) 他 社 比 較

性別、区分	重 要 度			関 連 度				友 人 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男 子 N %	10 83.33	2 16.67	12 33.33	10 83.33	2 16.67	0 0.00	12	9 75.00	3 25.00	0 0.00	12
女 子 N %	16 66.67	8 33.33	24 66.67	21 87.50	3 12.50	0 0.00	24	22 91.67	1 4.17	1 4.17	24
合 計 N %	26 72.22	10 27.78	36	31 86.11	5 13.89	0 0.00	36	31 86.11	4 11.11	1 2.78	36

表 2-6 重要度・関連度・友人評価 (評価の基準別)

6 魅 力 (1) 自 己 目 標

性別、区分	重 要 度			関 連 度				友 人 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男 子 N %	5 12.82	34 87.18	39 32.50	5 12.82	24 61.54	10 25.64	39	12 30.77	26 66.67	1 2.56	39
女 子 N %	14 17.28	67 82.72	81 67.50	22 27.16	51 62.96	8 9.88	81	34 41.98	43 53.09	4 4.94	81
合 計 N %	19 15.83	101 84.17	120	27 22.50	75 62.50	18 15.00	120	46 38.33	69 57.50	5 4.17	120

6 魅 力 (2) 他 者 比 較

性別、区分	重 要 度			関 連 度				友 人 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男 子 N %	8 34.78	15 69.22	23 50.00	12 52.17	1 39.13	2 8.70	23	12 52.17	9 39.13	2 8.70	23
女 子 N %	7 30.43	16 69.57	23 50.00	13 56.52	9 39.13	1 4.35	23	15 65.22	8 34.78	0 0.00	23
合 計 N %	15 32.61	31 67.39	46	25 54.35	18 39.13	3 6.52	40	27 58.70	17 36.96	2 4.35	46

表 2-7 重要度・関連度・友人評価 (評価の基準別)

7 服 装 (1) 自 己 目 標

性別、区分	重 要 度			関 連 度				友 人 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男 子 N %	2 5.26	36 94.74	38 33.33	6 15.79	24 63.16	8 21.05	38 33.33	3 7.89	27 71.05	8 21.05	38 33.33
女 子 N %	17 22.37	59 77.63	76 66.67	36 47.37	34 44.74	6 7.89	76 66.67	33 43.42	39 51.32	4 5.26	76 66.67
合 計 N %	19 16.67	95 83.33	114	42 36.84	58 50.88	14 12.28	114	36 31.58	66 57.89	12 10.53	114

7 服 装 (2) 他 者 比 較

性別、区分	重 要 度			関 連 度				友 人 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できる	い え ない	評 価 できぬ	合 計
男 子 N %	7 29.17	17 70.83	24 46.15	15 62.50	7 29.17	2 8.33	24 46.15	15 62.50	6 25.00	3 12.50	24 46.15
女 子 N %	14 50.00	14 50.00	28 53.85	20 71.43	8 28.57	0 0.00	28	20 71.43	8 28.57	0 0.00	28 53.85
合 計 N %	21 40.38	31 59.62	52	35 67.31	15 28.85	2 3.85	52	35 67.31	14 26.92	3 5.77	52

表2-8 重要度・関連度・友人評価 (評価の基準別)

8 将来 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				友人評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	34 73.91	12 26.09	46 37.70	25 54.35	17 36.96	4 8.70	46	22 47.83	17 36.96	7 15.22	46
女子 N %	59 77.63	17 22.37	76 62.30	50 65.79	19 25.00	7 9.21	76	39 51.32	35 46.05	2 2.63	76
合計 N %	93 76.23	29 23.77	122	75 61.48	36 29.51	11 9.02	122	61 50.00	52 42.62	9 7.38	122

8 将来 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				友人評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	13 81.25	3 18.75	16 36.36	7 43.75	8 50.00	1 6.25	16	9 56.25	7 43.75	0 0	16
女子 N %	24 85.71	4 14.29	28 63.64	21 75.00	6 21.43	1 3.57	28	22 78.57	4 14.29	2 7.14	28
合計 N %	37 84.09	7 15.91	44	28 63.63	14 31.82	2 4.55	44	31 70.45	11 25.00	2 4.55	44

表3-1 重要度・関連度・一般評価 (評価の基準別)

1 専門 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	24 54.55	20 45.45	44 37.93	8 18.18	22 50.00	14 31.82	44	4 9.09	32 72.73	8 18.18	44
女子 N %	50 69.44	22 30.56	72 62.07	15 20.83	45 62.50	12 16.67	72	5 6.94	53 73.61	14 19.44	72
合計 N %	74 13.79	42 36.21	116	23 19.83	67 57.76	26 22.41	116	9 7.76	85 73.28	22 18.97	116

1 専門 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	15 83.33	3 16.67	18 36.00	4 22.22	9 50.00	5 27.78	18	2 11.11	11 61.11	5 27.78	18
女子 N %	18 56.25	14 43.75	32 64.00	12 37.50	17 53.13	3 9.38	32	2 6.25	28 87.50	2 6.25	32
合計 N %	33 66.00	17 34.00	50	16 32.00	26 52.00	8 16.00	50	4 8.00	39 78.00	7 14.00	50

表3-2 重要度・関連度・一般評価 (評価の基準別)

2 成績 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	14 40.00	21 60.00	35 36.46	10 28.57	18 51.43	7 20.00	35	1 2.86	26 74.29	8 22.86	35
女子 N %	29 47.54	32 52.46	61 63.54	23 37.70	31 50.82	7 11.48	61	5 8.20	45 73.77	11 18.03	61
合計 N %	43 44.79	53 55.21	96	33 34.38	49 51.04	14 14.58	96	6 6.25	71 73.96	19 19.79	96

2 成績 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	12 44.44	15 55.56	27 38.57	15 55.56	9 33.33	3 11.11	27	4 14.81	22 81.48	1 3.70	27
女子 N %	10 23.26	33 76.74	43 61.43	24 55.81	14 32.56	5 11.63	43	5 11.63	37 86.05	1 2.33	43
合計 N %	22 31.43	48 68.57	70	39 55.71	23 32.86	8 11.43	70	9 12.86	59 84.29	2 2.86	70

表 3-3 重要度、関連度、一般評価 (評価の基準別)

3 異性 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	12 29.27	29 70.73	41 40.20	21 51.22	18 43.90	2 4.88	41	15 36.59	26 63.41	0 0.00	41
女子 N %	19 31.15	42 68.85	61 59.80	25 40.98	34 55.74	2 3.28	61	16 26.23	45 73.77	0 0.00	61
合計 N %	31 30.39	71 69.61	102	46 45.10	52 50.98	4 3.92	102	31 30.39	71 69.61	0 0.00	102

3 異性 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	9 42.86	12 57.14	21 32.81	17 80.95	4 19.05	0 0.00	21	10 47.62	10 47.62	1 4.76	21
女子 N %	13 30.23	30 69.77	43 67.19	32 74.42	11 25.58	0 0.00	43	22 51.16	19 44.19	2 4.65	43
合計 N %	22 34.38	42 65.62	64	49 76.56	15 23.44	0 0.00	64	32 50.00	29 45.31	3 4.69	64

表 3-4 重要度、関連度、一般評価 (評価の基準別)

4 友人 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	33 67.35	16 32.65	49 37.69	33 67.35	15 30.61	1 2.04	49	16 32.65	32 65.31	1 2.04	49
女子 N %	50 61.73	31 38.27	81 62.31	53 65.43	27 33.33	1 1.23	81	29 35.80	52 64.20	0 0.00	81
合計 N %	83 63.85	47 36.15	130	86 66.15	42 32.31	2 1.54	130	45 34.62	84 64.62	1 0.77	130

4 友人 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	8 61.54	5 38.46	13 36.11	9 69.23	3 23.08	1 7.69	13	10 76.92	2 15.38	1 7.69	13
女子 N %	15 65.22	8 34.78	23 63.89	21 91.30	2 8.70	0 0.00	23	16 69.57	6 26.09	1 4.35	23
合計 N %	23 63.89	13 36.11	36	30 83.33	5 13.89	1 2.78	36	26 72.22	8 22.22	2 5.56	36

表3-5 重要度・関連度・一般評価 (評価の基準別)

5 社交 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	38 71.70	15 28.30	55 40.46	25 47.17	25 47.17	3 5.66	53	22 41.51	30 56.60	1 1.89	53
女子 N %	52 66.67	26 33.33	78 59.54	35 44.87	43 55.13	0 0.00	78	31 39.74	46 58.97	1 1.28	78
合計 N %	90 68.70	41 31.30	131	60 45.80	68 51.91	3 2.29	131	53 40.46	76 58.02	2 1.53	131

5 社交 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	7 77.78	2 22.22	9 25.71	7 77.78	2 22.22	0 0.00	9	7 77.78	1 11.11	1 11.11	9
女子 N %	18 69.23	8 30.77	26 74.29	17 65.38	9 34.62	0 0.00	26	22 84.62	4 15.38	0 0.00	26
合計 N %	25 71.43	10 28.57	35	24 68.57	11 31.43	0 0.00	35	29 82.86	5 14.29	1 2.86	35

表3-6 重要度・関連度・一般評価 (評価の基準別)

6 魅力 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	6 28.57	15 71.43	21 32.31	4 19.05	16 76.19	1 4.76	21	3 14.29	16 76.19	2 9.52	21
女子 N %	20 45.45	24 54.55	44 67.69	9 20.45	31 70.45	4 9.09	44	6 13.64	34 77.27	4 9.09	44
合計 N %	26 40.00	39 60.00	65	13 20.00	47 72.31	5 7.69	65	9 13.85	50 76.29	6 9.23	65

6 魅力 (2) 他者比較

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	16 39.02	25 60.98	41 40.59	22 53.66	19 46.34	0 0.00	41	13 31.71	24 58.54	4 9.76	41
女子 N %	38 63.33	22 36.67	60 59.41	37 61.67	22 36.67	1 1.67	60	21 35.00	36 60.00	3 5.00	60
合計 N %	54 53.47	47 46.53	101	59 58.42	41 40.59	1 0.99	101	34 33.66	60 59.41	7 6.93	101

表3-7 重要度・関連度・一般評価 (評価の基準別)

7 服装 (1) 自己目標

性別、区分	重要度			関連度				一般評価			
	重要である	重要でない	合計	関連がある	いえない	関連がない	合計	評価できる	いえない	評価できぬ	合計
男子 N %	7 41.18	10 58.82	17 28.81	7 41.18	9 52.94	1 5.88	17	3 17.65	10 58.82	4 23.53	17
女子 N %	21 50.00	21 50.00	42 71.19	13 30.95	23 54.76	6 14.29	42	7 16.67	28 66.67	7 16.67	42
合計 N %	28 47.46	31 52.54	59	20 33.90	32 54.24	7 11.86	59	10 16.95	38 64.41	11 18.64	59

7 服装 (2)他者比較

性別、区分	重 要 度			関 連 度				一 般 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できぬ	い え ない	評 価	合 計
男 子 N %	11 24.44	34 75.56	45 42.06	36 80.00	6 13.33	3 6.67	45	23 51.11	19 42.22	3 6.67	45
女 子 N %	38 61.29	24 38.71	62 57.94	42 67.74	18 29.03	2 3.23	62	27 43.55	33 53.23	2 3.23	62
合 計 N %	49 45.79	58 54.21	107	78 72.90	24 22.43	5 4.67	107	50 46.73	52 48.60	5 4.67	107

表 3-8 重要度・関連度・一般評価 (評価の基準別)

8 将来 (1)自己目標

性別、区分	重 要 度			関 連 度				一 般 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できぬ	い え ない	評 価	合 計
男 子 N %	28 58.33	20 41.67	48 38.10	9 18.75	27 56.25	12 25.00	48	6 12.50	34 70.83	8 16.67	48
女 子 N %	49 62.82	29 37.18	78 61.90	23 29.49	48 61.54	7 8.97	78	6 7.69	64 82.05	8 10.26	78
合 計 N %	77 61.11	49 38.89	126	32 25.40	75 59.52	19 15.08	126	12 9.52	98 77.78	16 12.70	126

8 将来 (2)他者比較

性別、区分	重 要 度			関 連 度				一 般 評 価			
	重 要 である	重 要 でない	合 計	関 連 がある	い え ない	関 連 がない	合 計	評 価 できぬ	い え ない	評 価	合 計
男 子 N %	11 78.57	3 21.43	14 35.00	3 23.08	7 53.85	3 23.08	13 33.33	2 14.29	8 57.14	4 28.57	14
女 子 N %	14 53.85	12 46.15	26 65.00	11 42.31	9 34.62	6 23.08	26 66.67	6 23.08	15 57.69	5 19.23	26
合 計 N %	25 62.50	15 37.50	40	14 35.90	16 41.03	9 23.08	39	8 20.00	23 57.50	9 22.50	40

親しい友人への評価は、ここにあげた項目を含みながらよりトータルな領域で成立するが、一般的な他者に対しては、これらの項目が評価に際して意味をもつのであろう。

1-2 項目の関連度

表1の各項から容易に見てとれるように、被験者が「重要である」とする事は必ずしも深い関与(実行)があるわけではない。たとえば、自己を規定するものとして「専門分野の知識習得」に強いかかわる者(一生懸命やっている)は、評価基準を考慮しない全体でみると、47%である。重要度と関連度にはすべてこのようなギャップがある。

この関連度を自己・友人・一般学生の間で比較してみると、概して友人の関連度の評価が自己の関連度の評価より高く、一般学生の関連度の評価がもっとも低い。

自己と友人との間で、「関連がある」という比率を比較してみると(評価の基準は考慮しない)、友人の比率の方が高いのは、1 専門(CR=2.5324 5%レベルで

有意差)、5 社交(CR=2.5698 5%)、6 魅力(CR=4.2615 0.05%)、7 服装(CR=3.8841 0.05%)、8 将来(CR=2.8641 0.5%)であり、被験者には、友人の関連度が高く評価されていることがわかる。

しかし、より詳細に見ると、女子の場合に友人に対する評価がより高くなっているのである。男子では、項目1、5、8において、自己の関連度と友人の関連度には差が見られない。女子には、友人の行動が過大に評価されるのかもしれない。なお、トータルとしての「関連度がある」比率は自己の場合、1 専門46.99% 2 成績47.59% 3 異性34.33% 4 友人78.31% 5 社交52.41% 6 魅力12.05% 7 服装25.90% 8 将来46.39%となっており、対人関係にもっともよく配慮していることがわかる。

1-3 評価の基準

表4は、項目内容の成果(程度)を評価する基準を、自己と友人、一般学生についてまとめたものである。友人と一般学生については、被験者が認知(推測)するも

のである。

まず自己の項目内容を評価する基準では、1 専門以外はすべて「自己目標」の比率が高い（ただし、女子は1 においても「自己目標」の基準だとする者が多い）。項目1, 2, 8は「他者以上」の成果が期待される項目として設定されたが、必ずしもそのように意識されているとはいえない。従って、重要度の部分で述べたように「他者以上」と「自己満足」の基準が、自己評価の維持にどのような影響をおよぼすかを検討するうえで、困難な条件だといえるだろう。しかしながら、項目1, 2, 8は他の項目よりも「他者比較」を基準とする者の比率が高く、項3, 4, 5は「自己目標」の基準の率が高いので、一応これらの項目を選定した根拠は成立したと考えられる。

次に、友人や一般学生がもっと推測された評価の基準について検討してみる。

表からわかるように、自己と友人の基準を比較してみると、概して友人の基準は「他者比較」の比率が増している（項目1, 8での自己の「他者比較」の率は友人のそれを上まわることが有意な差ではない。全体として自己と友人の間に比の差は有意ではない）。

更に自己と一般学生の比較でも同様な傾向がもっとはっきり見られる。

一般学生の6魅力と7服装では、はっきりと「他者比較」の基準であると評価されている。また7異性においても「他者比較」の比率が一般学生の方で高い（CR=5.5546 0.01%レベルで有意）。

このように評価の基準は、他者（友人・一般学生）の場合、「他者比較」の率が高くなるように認知されている。被験者は、項目内容の成果（程度）を自己の目標や満足において評価すると回答する割合が高いが、他者については、「他者比較」という基準で成果を評価すると考える割合が増すのである。他者は、より「競争的」に意識されるのであろうか。それともより高い目標をもっていると評価されているのであろうか。

1-4 項目内容の成果（程度）の評価

それぞれの項目内容の成果については、誰がターゲットであっても4友人, 5社交の評価が高い。基本的に大学生の生活の評価は、交友関係を中心にして成立していることがわかる。

自己評価は次に8将来, 2成績, 友人評価は、1専門2成績, 8将来などである。これに対して一般学生の場合の評価は3異性, 7服装となっており、一般学生への評価は低く、しかも勉強に関係のある項目以外が目立つ結果となっている。

ここで自己評価の内容を、「自己目標」と「他者比較」の基準で検討してみる。一見して「他者比較」の基準をもつ者が評価が高くなるのがわかる。より詳細には、「評価できる」とする者の比率を両基準で比較してみた。その結果、10人以上の「評価できる」とする回答があった項目では、1専門と8将来において「他者比較」が「自己目標」よりも有意に高率であった（1では $\chi^2=5.1498$ 5%レベル, 8では $\chi^2=5.5226$ 5%レベルで、「他者比較」の方が「評価できる」という率が高い。またここには、男女間の性差もみられる。1では $\chi^2=9.7586$, 2では $\chi^2=4.4018$ 。前者は0.5%, 後者は5%レベルで有意な差がある）。

次に自己評価と友人評価の検討をしてみよう。「評価できる」という率を、「自己目標」と「他者比較」の基準別に比較すると、1専門, 2成績, 5社交, 6魅力7服装, 8将来の項目において、どの基準でも友人評価の方が自己評価よりも有意に高かった（ただし、8では「他者比較」において差はなかった。以下に各項目のCRの値を示す。1自己目標：CR=4.6271 他者比較：CR=3.3631 0.1%, 2自己目標：CR=2.1602 5% 他者比較：CR=2.8092 1%, 5自己目標：CR=4.9371 0.05% 他者比較：CR=2.7391 1%, 8自己目標：CR=2.5544 5%。項目6, 7は人数が少なかったのでCR値は省略する）。

このように、多くの項目で、友人評価が自己評価を上まわっているため、自己にとっていくらか関連度が高い項目でも、友人との比較において果してよりよい評価を下すかどうか疑問がもたれるが、以下に「自己評価維持」の分析を試みる。

2 自己評価維持

当初、自己規定にかかわる要因としては、項目の重要度と関連度を操作する計画であったが、先に見たように重要であると回答しながら、実際には関連度は相対的に低下していた。また、重要度と関連度を同時に高・低に分類することは困難でもあった。そこで、計画を変更して関連度のみを自己規定の基準として用いることにした。

即ち、表1の各項において「関連がある」とした項を自己規定に関連がある項目とし、「関連がない」とした項を自己規定に関連性が少ない項目とした。

このような項目のうち、「関連度高」と「関連度低」に分類される人数が極端にバランスを失わないことを基準にして、1専門, 3異性, 7服装, 8将来の各項目が分析の対象となった。なお、先に見たように、関連度や成果（程度）の評価において、性差の認められる項目が

あったので、最初から男女別の分析を行った。表5はこの分析に用いられた関連性の高低による各ターゲットの評価得点である。この得点はもとの7ポイントをそのまま使用している。従って、「大へんよくやっている」は1点、「どちらともいえない」4点、「全くやっていな

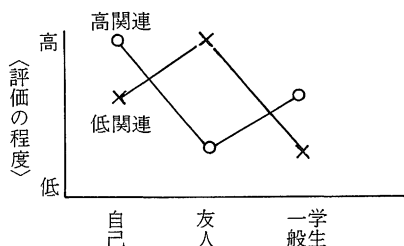


図1 SEMモデルによる仮説的評価

い」7点とする得点の配置になっている。

これら4項目を、ターゲット別評価(自己・友人・一般)×関連度(高・低)の分散分析を行った結果を示す

前に、表5の各項目の平均得点を図2として掲げる。

この図2のいずれも、SEMモデルによる仮説的な図1とは異なっている。自己・友人・一般の評価はそれぞれ複雑な動きを示し、一貫したパターンは見出し難い。

しかし、関連高の方が関連低よりも評価が高いこと、関連低の場合には自己の評価がもっとも悪いことなどである。

この図の中で、SEMモデルに一部フィットすると思われるのは、図2-IVおよび図2-VIであろう。しかしそれも自己と友人との評価の関係に限定されている。事実分散分析の結果もそれを裏づけるものであった。

以下に分散分析の結果の要点を列挙する。

- ①男女すべての項目において、ターゲット別評価の要因に有意差があった。
- ②関連性の高低の要因において、すべて有意差が認められた。
- ③評価と関連度の交互作用もすべて有意な差があった。

表6は、部分的にSEMモデルに妥当する項目(男子

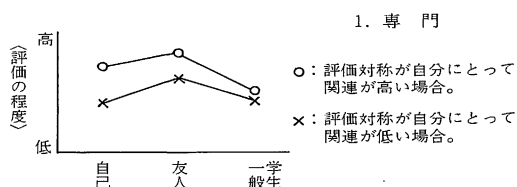


図2-I 男子の項目①

3. 異性

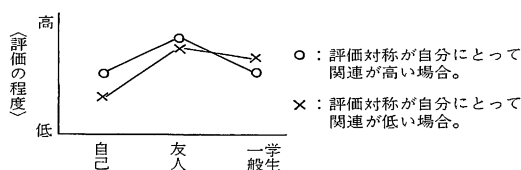


図2-V 女子の項目①

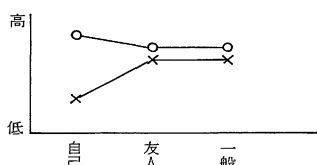


図2-II 男子の項目③

7. 服装

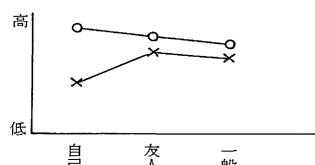


図2-VI 女子の項目③

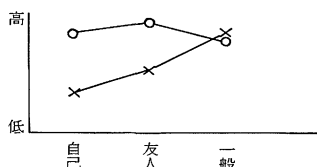


図2-III 男子の項目⑦

8. 将来

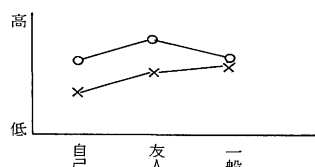


図2-VII 女子の項目⑦

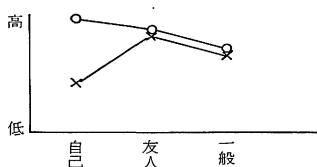


図2-IV 男子の項目⑧

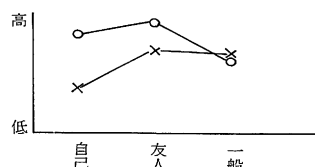


図2-VIII 女子の項目⑧

図2

表4 項目別評価の基準

(上段：人数 下段：比率)

区 分		自 己			友 人			一 般 学 生		
		自己目標	他者比較	合 計	自己目標	他者比較	合 計	自己目標	他者比較	合 計
1 専 門	男 子	23 37.10	39 62.90	62 37.35	38 61.29	24 38.71	62 37.35	44 70.97	18 29.03	62
	女 子	58 55.77	46 44.23	104 62.65	60 57.69	40 42.31	104 62.65	72 69.23	32 30.77	104
	合 計	81 48.80	85	166	98 59.04	68 40.96	166	116 69.88	50 30.12	166
2 成 績	男 子	39 62.90	23 37.10	62	35 56.45	27 43.55	62	35 56.45	27 43.55	62
	女 子	61 58.65	43 41.35	104	56 53.85	48 46.15	104	61 58.65	43 41.35	104
	合 計	100 60.24	66 39.76	166	91 54.82	75 45.18	166	96 57.83	70 42.17	166
3 異 性	男 子	47 75.81	15 24.19	62	47 75.81	15 24.19	62	41 66.13	21 33.87	62
	女 子	99 95.19	5 4.81	104	87 83.65	17 16.35	104	61 58.65	43 41.35	104
	合 計	146 87.95	20 12.05	166	134 80.72	32 19.28	166	102 61.45	64 38.55	166
4 友 人	男 子	50 80.65	12 19.35	62	51 82.26	11 17.74	62	49 79.03	13 20.97	62
	女 子	93 89.42	11 10.58	104	86 82.69	18 17.31	104	81 77.88	23 22.12	104
	合 計	143 86.14	23 13.86	166	137 82.53	29 17.47	166	130 78.31	36 21.69	166
5 社 交	男 子	47 75.81	15 24.19	62	50 80.65	12 19.35	62	53 85.48	9 14.52	62
	女 子	87 83.65	17 16.35	104	80 76.92	24 23.08	104	78 75.00	26 25.00	104
	合 計	134 80.72	32 19.28	166	130 78.31	36 21.69	166	131 78.92	35 21.08	166
6 魅 力	男 子	46 74.19	16 25.81	62	39 62.90	23 37.10	62	21 33.87	41 66.13	62
	女 子	81 77.88	23 22.12	104	81 77.88	23 22.12	104	44 42.31	60 57.69	104
	合 計	127 76.51	39 23.49	166	120 72.29	46 27.71	166	65 39.16	101 60.84	166
7 服 装	男 子	47 75.81	15 24.19	62	38 61.29	24 38.71	62	17 27.42	45 72.58	62
	女 子	82 78.85	22 21.15	104	76 73.08	28 26.92	104	42 40.38	62 59.62	104
	合 計	129 77.71	37 22.29	166	114 68.67	52 31.33	166	59 35.54	107 64.46	166
8 将 来	男 子	36 58.06	26 41.94	62	46 74.19	16 25.81	62	48 77.42	14 22.58	62
	女 子	72 69.23	32 30.77	104	76 73.08	28 26.92	104	78 75.00	26 25.00	104
	合 計	108 65.06	58 34.94	166	122 73.49	44 26.51	166	126 75.90	40 24.10	166

表 5-1 専 門 (男子)

対 象		自 分	友 人	一 般
関連高	N	31	31	31
	\bar{X}	3.29	3.10	4.09
	S D	1.1013	1.7560	0.5736
関連低	N	8	8	8
	\bar{X}	4.63	3.5	4.5
	S D	1.5059	0.9258	1.0690

表 5-5 専 門 (女子)

対 象		自 分	友 人	一 般
関連高	N	46	46	46
	\bar{X}	4.13	3.20	4.13
	S D	1.1077	0.9338	0.4993
関連低	N	22	22	22
	\bar{X}	5.41	3.36	3.95
	S D	1.2212	1.1770	0.6530

表 5-2 異 性

対 象		自 分	友 人	一 般
関連高	N	29	29	29
	\bar{X}	3.17	3.45	3.45
	S D	1.1360	1.1208	0.7361
関連低	N	17	17	17
	\bar{X}	5.47	3.65	3.65
	S D	1.5459	1.6561	0.8618

表 5-6 異 性

対 象		自 分	友 人	一 般
関連高	N	28	28	28
	\bar{X}	3.00	3.36	3.54
	S D	1.1222	1.1292	0.6929
関連低	N	31	31	31
	\bar{X}	4.90	3.58	3.65
	S D	1.1932	0.9583	0.6607

表 5-3 服 装

対 象		自 分	友 人	一 般
関連高	N	10	10	10
	\bar{X}	3.3	3	3.7
	S D	1.1595	0.9428	1.4944
関連低	N	23	23	23
	\bar{X}	5.22	4	3.39
	S D	0.7952	0.8528	0.8913

表 5-7 服 装

対 象		自 分	友 人	一 般
関連高	N	33	33	33
	\bar{X}	3.88	3.21	3.79
	S D	0.5453	0.6963	1.0535
関連低	N	23	23	23
	\bar{X}	4.61	3.61	3.57
	S D	0.8388	0.7872	0.6124

表 5-4 将 来

対 象		自 分	友 人	一 般
関連高	N	33	33	33
	\bar{X}	2.91	3.42	4.06
	S D	0.8048	1.0616	0.7475
関連低	N	14	14	14
	\bar{X}	4.93	3.43	4.29
	S D	0.9972	0.7559	0.7263

表 5-8 将 来

対 象		自 分	友 人	一 般
関連高	N	43	43	43
	\bar{X}	3.23	3.00	4.00
	S D	0.7184	0.8165	0.3780
関連低	N	19	19	19
	\bar{X}	5.11	3.63	3.84
	S D	1.1496	0.5973	0.6021

8, 女子3)の分散分析表である。

表6-1で対象間で t 検定を行ったところ、関連性高における評価は、自己>友人 ($t=2.1656$, $p<.05$), 友人>一般 ($t=2.7884$, $p<.01$) の関係があり、関連性低における評価は、友人>一般 ($t=2.9580$, $p<$

.01)となった(一般と自己の間は有意な差はない)。

また、表6-2から、関連性高における対象間の評価の差は、自分>一般 ($t=2.1275$, $p<.05$), 関連性低では、友人 \geq 一般>自己 ($t=5.0198$, $p<.001$) のようになった。

表6-1 8. 将来に向っての努力 (男子)

変 動 因	平方和	自由度	平均平方	F	P
1. 対 象 (自己・友人・一般)	11.4360	2	5.7180	7.5765	0.01
2. 関 連 度 (高 ・ 低)	16.7355	1	16.7355	22.1750	0.01
3. 交 互 作 用	23.8950	2	11.9475	15.8308	0.01
4. 誤 差	101.8835	135	0.7547		

表6-2 3. 特定の異性の友人の存在 (女子)

変 動 因	平方和	自由度	平均平方	F	P
1. 対 象 (自己・友人・一般)	16.9449	2	8.4725	6.1965	0.01
2. 関 連 度 (高 ・ 低)	26.0432	1	26.0432	19.0472	0.01
3. 交 互 作 用	31.5092	2	15.7546	11.5224	0.01
4. 誤 差	180.4817	132	1.3673		

このように見てくると、SEMモデルは、関連性が高い項目の評価では、自己を高く評価し、自己の評価を維持するためには友人の評価を親近感のない人(一般学生)よりも低くすると予想する点で、本研究と一致しない。関連性の高低によって自己と友人の評価が逆のパターンをとるという点では理解できるが、友人の評価を見知らぬ人よりも低くするという現象は、本研究のどの項目にも現われなかった。

あるいは Tesser の一連の研究のように、実際に自己評価の危機に直面する操作ほどこさなければ、比較による自我防衛は出現しないのかもしれない。

3 関連度と自己評価、重要性の相互関係

自己を規定する関連度と自己評価、さらに友人評価の関係は、本研究で採用した日常的場面での認知という点では、SEMモデルに妥当しなかった。

そこで、こゝにとり上げた項目は、関連度・自己評価さらに重要度とどのような相関関係にあるかを検討した。表7は、これら三要因の相関係数および偏相関係数である。

表7-1より、重要度と関連度においては、全体としてすべてに相関が認められる。相関が高いのは、3異性、5社交、6服装であって、学生が関心をもちやすい項目である。男女の差は、相関の高い項目の中に男子では2成績があるのに、女子は3異性が入っていることである。

重要度と評価の相関は、これら三要因の相関の中でもっとも低い。何かが自分にとって重要であると認めるこ

とと、そのことへのかかわりにおいて成果があがるということは別の次元の問題であることがわかる。従って、自己規定にかかわる項目の重要度をどのように操作するかが、自己評価との関係でもっとも重要なポイントになると考えられる。

関連度と自己評価は、関連度と重要度の相関とは同じような大きさを示している。全体としてすべて有意な相関があり、男女とも共通している。

男子では、7服装、8専門、3異性の相関係数が高く5社交、1専門などもかなりの相関を示す。

女子は8将来、3異性、5社交、4友人において相関が高い。

この関連度と自己評価の関係を評価の基準別に分析したものが表7-2である。「自己目標」の基準の方が相関が高くなっているものも、逆に「他者比較」の基準において相関が高いものもあるが、いずれも有意な差は見出せなかった。わずかに8将来の項目で「他者比較」における相関が「自己目標」の相関を上まわる傾向があっただけである。(CR=1.7663 .05<p<.10)

そこで、関連度と自己評価に対して、重要度と評価の基準がどのように貢献しているかを検討するために、偏相関係数を調べた(表7-3)。

その結果、3異性、7服装などの項で、重要度をコントロールした場合にかなりの影響が出ていることがわかった。その点、評価の基準をコントロールしてもあまり変化は見られなかった。

自己評価に際して、評価の基準が「他者」であるか、あるいは自分なりの満足感でいいのかということが影響を及ぼすことを想定して、この基準を導入したが、あまり有効に作用していないことがわかった。改めて検討する必要があるだろう。

要 約

Tesser らの SEM モデルに従って、大学生の日常生活における行動項目の自己評価を、親しい友人や一般学生の行動項目と被験者の認知次元において比較検討した。

Tesser らと異なり、重要度を関連度の中に組みこまなかった本研究において、関連度の高低による比較過程あるいは反映過程の自己評価維持現象は明確にされなかった。自己規定に関わる関連度を操作するには、対象項目の重要度を効果的に組みこむことが必要である。

関連度と評価の相関は重要度と関連度の評価よりも大きかったが、評価基準を導入して関連度・評価の相関に

表 7-1 相 関 係 数

	重要度 * 関連度			関連度 * 評価			重要度 * 評価				
	男子	女子	全体		男子	女子	全体		男子	女子	全体
(1) 専門	.1717	.2964 @	.2617@@	(1) 専門	.4253@@	.3791**	.3977**	(1) 専門	.1876	.0904	.1321 ¥
(2) 成績	.5191**	.3624 *	.4200**	(2) 成績	.2532 #	.3085 @	.2751 *	(2) 成績	.2981 #	.0348	.1450 ¥
(3) 異性	.4793**	.5976**	.5581**	(3) 異性	.5794**	.5227**	.5416**	(3) 異性	.3094 #	.4260**	.3666**
(4) 友人	.2613 #	.3789**	.3314**	(4) 友人	.2697 #	.4817**	.3872**	(4) 友人	.1041	.1282	.1188
(5) 社交	.6231**	.5160**	.5606**	(5) 社交	.4493 *	.5179**	.4947**	(5) 社交	.3460##	.2098 #	.2781 *
(6) 魅力	.4448 *	.2859 @	.3578**	(6) 魅力	.3416##	.0244	.1736 #	(6) 魅力	.1733	.1314	.1538 #
(7) 服装	.5959**	.6070**	.6083**	(7) 服装	.6942**	.3683**	.5501**	(7) 服装	.4033 @	.1904 ¥	.3167**
(8) 将来	.4303 *	.2164 #	.3070**	(8) 将来	.6852**	.6431**	.6620**	(8) 将来	.4116@@	.1756 ¥	.2709 *

[¥: .1>P>.05 # : P<.05 ## : P<.01 @ : P<.005 @@ : P<.001 * : P<.0005 ** : P<.0001]

表 7-2 相 関 係 数 評 価 の 基 準 別 (自 己 目 標 : 他 者 比 較)

		男 子		女 子		全 員	
		N	P (%)	N	P (%)	N	P (%)
(1) 専門	自己目標	.3176	23	.4601	58 *	.4526	81**
	他者比較	.4974	39@@	.2935	46 #	.3482	85@@
(2) 成績	自己目標	.3113	39 ¥	.194	61	.2334	100 #
	他者比較	.0441	23	.4837	43@@@	.3164	66##
(3) 異性	自己目標	.4899	47 *	.5247	99**	.5057	146**
	他者比較	.7838	15 @	.5053	5	.7151	20 *
(4) 友人	自己目標	.2937	50 #	.4644	93**	.3942	143**
	他者比較	-0.734	12	.5904	11 ¥	.2871	23
(5) 社交	自己目標	.3450	47 #	.5161	87**	.4561	134**
	他者比較	.4418	15	.5708	17 #	.5401	32 *
(6) 魅力	自己目標	.1965	46	.1689	81	.1837	127 #
	他者比較	.5362	16 #	-.3881	23 ¥	.0618	39
(7) 服装	自己目標	.6097	47**	.3611	82@@@	.4968	129**
	他者比較	.8242	15 *	.1933	22	.6170	37**
(8) 将来	自己目標	.6640	36**	.5658	72**	.5985	108**
	他者比較	.6810	26**	.8009	32**	.7563	58**

[¥: .1>P>.05 # : P<.05 ## : P<.01 @ : P<.005 @@ : P<.001 * : P<.0005 ** : P<.0001]

表 7-3 一 次 ・ 二 次 偏 相 関 係 数 (関 連 度 * 評 価)

CONTROLL	全 体			男 子	女 子
	重 要 度	基 準	重 要 ・ 基 準	重 要 ・ 基 準	重 要 ・ 基 準
(1) 専門	.3796**	.3895**	.3771**	.4121@@	.3642**
(2) 成績	.2386 @	.2655@@	.2364 @	.1231	.3181@@
(3) 異性	.4366**	.5410**	.4371**	.5164**	.3696**
(4) 友人	.3713**	.3782**	.3653**	.2246 ¥	.4724**
(5) 社交	.4260**	.4667**	.4099**	.2564 #	.4944**
(6) 魅力	.1286	.1455 ¥	.1154	.2970 #	-.0220
(7) 服装	.4748**	.5315**	.4731**	.6224**	.3180@@
(8) 将来	.6318**	.6556**	.6303**	.6085**	.6399**

[¥: .1>P>.05 # : P<.05 ## : P<.01 @ : P<.005 @@ : P<.001 * : P<.0005 ** : P<.0001]

与える影響をみたが、評価基準よりも、やはり重要度の影響の方が大きいと思われる。この点についても、対象項目の重要度の操作の必要性が認められる。

今後は、友人や疎遠な他者の実際の評価を分析の対象にし、それぞれの重要度×評価、関連度×評価に加えてターゲット同志の評価の相関も検討する必要があると思われる。

引用・参考文献

- Felson, R. B., & Reed, M. D. 1986 Reference groups and self-appraisal of academic ability and performance. *Social Psychology Quarterly*, 49, 2, 103-109.
- Festinger, L. 1954 A theory of social comparison processes. *Human Relations*, 7, 117-140.
- 加田明弘 1987 キャンパスライフ：大学生の風俗に関する一研究 昭和61年度島根大学教育学部卒業論文
- 梶田叡一 1980 自己意識の心理学 東京大学出版
- Shaw, M. E., & Constanzo, P. R. 1982 *Theories of social psychology*. McGraw-Hill. (古畑和孝監訳 1984 社会心理学の理論 I・II サイエンス社)
- Tesser, A., & Campbell, J. 1980 Self-definition: The impact of the relative performance and similarity of others. *Social Psychology Quarterly*, 43, 341-347.
- Tesser, A., & Smith, J. 1980 Some effects of task relevance and friendship on helping: You don't always help the one you like. *Journal of Experimental Social Psychology*, 16, 582-590.
- Tesser, A., & Campbell, J. 1982 Self-evaluation maintenance and the perception of friends and strangers. *Journal of Personality*, 50: 3, 261-279.
- Tesser, A., & Campbell, J. 1984 Friendship choice and performance: Self-evaluation maintenance in children. *Journal of Personality and Social Psychology*, 46, 3, 561-574.